

第3回 幼・保・小合同研修会

と き 令和2年7月28日(木) 午後3時～午後4時30分

ところ 郡山市総合福祉センター5階集会室

「幼保小連続の取り組みを通しての学びあい・育ち合い」

～竹早小学校の実践を通して～

講師：東京学芸大学附属竹早小学校 研究主任 上野 敬弘 先生

講師の上野先生は、社会科教育・公民教育が専門で、2012年より日本公民教育学会・常任理事、現在は日本社会科教育学会幹事を務められています。また、竹早小学校では研究主任として幼小の連続性について研究を推進しておられます。

第3回の合同研修会では、「幼保小連続の取り組みを通しての学びあい・育ち合い」をテーマに教育講演をいただきました。今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、オンラインによる研修会を実施しました。初めての試みでしたが、通信トラブル等もなく、有意義な研修会となりました。

【幼小一貫教育の教育課程】

- ◇ 平成2年より幼稚園と小学校の段差(小1プロブレム)の解消に向け、研究を始める。
- ◇ 学校では幼稚園で育てた「自発性」「自律性」「協同性」を各教科での学びに繋げる。
 - ・幼稚園で培った学びや幼稚園の教師の基本姿勢をふまえた支援や指導を大切にす。
 - ・教科横断的な視点をふまえて活動(自己実現活動)を創る。

自己実現活動の進め方・考え方

- (1) 校種ごとに「ねらい」があることで、交流することの意義が生まれる。
- (2) 「互惠性」をもった交流であること。※互惠性・・・互いに相手に利益や恩恵を与え合うこと。
そのためには、子ども目線の環境を作ることと、少人数での関われる交流であることが大切
- (3) 単発での交流活動をなるべく避ける。
- (4) 生活の中の出来事から活動を考える。

【幼小連携をさらに深めるために】

<幼稚園側>

- ・「10の姿」をふまえた小学校側への申し送りの必要性
→「幼児の課題≦幼児の「10の姿」から見た現在の姿」へ
- ・幼稚園での活動が小学校でどのように生きるのかを「10の視点」から検討

<小学校側>

- ・「10の姿」の周知と共通理解(小学校内、幼小)
- ・幼稚園の先生の指導法から学び、小学校における指導の見直し
→環境、教師の基本姿勢、遊びと学び、子どもの見取り
- ・子どもの「学び」に対する概念の転換
→連続性、一人ひとりの学び、10の姿≠到達すべき目標



【アンケートから】

- ・ 幼小接続を意識した自己実現活動の内容を聞き、その大切さを改めて感じた。ぜひ、幼保小連続の取り組みを通して学び合える環境がさらに深まっていくことを希望したい。
- ・ 幼小連携の大切なことが実例をもとにわかりやすく学ぶことができた。現在、保育所でも異年齢児でペア活動を行おうとしているところだったので参考にしたい。
- ・ 複数の幼稚園・保育所から入学してくる子どもがいる中で、交流を持つことは簡単なことではないと思ったが、交流をする際の大事な視点を学ぶことができた。